

真理子先生の

女性の^とカタ

子宮頸がん予防接種

子宮頸がん予防ワクチンに関しては昨年1月のやまこみ第80号で御案内して以来、反響がものすごく、多くの方が接種されています。お値段がちょっとぴり高めなのは悩ましいところですが…。

山形市でもスタート

これまでに県内では山辺町や中山町など多くの自治体が無料接種制度を

伊藤 真理子

● (いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

導入していますが、今年からいよいよ山形市でも無料接種がスタートしました。対象者は市内在住の中学生と高校一年生。誕生日ですと平成7年4月2日から同10年4月1日までに生まれた女子が対象です。自治体によって対象年齢は異なりますのでご注意ください。

市報などでチェックを

子宮頸がんワクチンは、あくまで保護者の方がするかしなないかを判断する「任意接種」ですが、せっかくの貴重な機会です、時期を逃すことありませんように。期間もとても短いため、保護

者の皆様は十分ご確認の上スケジュールを立てましょう。

開始時期も各自治体で異なります。山形市の場合7月ごろからの見通しですが、残念ながら個人宛てには案内しないとのことです。市報や学校のお便りをお見逃しなく。問診票は各クリニックにあります。母子手帳御持参のうえ、保護者同伴の来院が必要です。

完璧ではありません

皆様が決して誤解して頂きたくないのは、接種したからといって100パーセント子宮頸がんにかからなくなるわけでは

ないということです。ワクチン対象外のヒトパピローマウイルスにかかれば子宮頸がんにかかる可能性は残ります。

早めの検診がお勧め

ウイルスに感染しないためにコンドームを使うことはもちろん、「20歳になったら子宮頸がん検診」をお忘れなく。ウイルス感染が心配な方はさらに早めの検診を受ければ安心でしょう。

